

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・商店街内の新しい商業施設が、全館オープンする予定になっている。
		一般小売店〔印章〕 （営業担当）	・電話番号の市外局番が3月1日に変更になるため、当社としては変更のゴム印、名刺の特需が2か月程度見込まれる。ただし、反面ガソリン代・紙代に続き、インク・印材等多くの物が値上がりしてきており、経営を圧迫する。
		百貨店（販売担当）	・3月に全館規模のリモデルがあり、3月以降に来客数の増が見込め、売上も今月に比べ大きく上昇する。
		通信会社（販売企画担当）	・卒業・入学等の新生活需要期を迎えることに加え、新商品も続々投入することから市場が活性化される見込みである。
		テーマパーク（業務担当）	・年度が変わるまで大きな変化は見込めないが、春のイベントへ向けての問い合わせは比較的好調であるため、少し上昇する。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・前年は春が早く来たため春物の動きが2月から良かったが、予想では前年より梅雨が長いということなので、春・夏物の商戦時期が短くなり、プロパー商品の動きが懸念される。石油高騰などの不安材料が及ぼす影響が、いつまで続くのか予想できない。
		百貨店（販売促進担当）	・諸物価高騰に加え、地元大手企業の業績不振も加わり地域の消費環境が上向き気配は見えてこない以上、相変わらず悪い状態が続く。
		百貨店（売場担当）	・まだまだ続くであろう商品の値上げや暫定税率の問題など、消費行動に良い影響を与えるものはなく、消費者の厳しい目は続く。
		百貨店（購買担当）	・紳士服・婦人服といった衣料関係は全く動きが悪い。今の時期だと、セール品と春物も若干見え隠れしているのだが、春物を展示していても、客は全く手を付けない。この春も厳しい状況が続くそうである。婦人用品は春色のストール等が動いているが、客は小物には手を出す、重衣料といわれる衣料品関係は買い求める気配が見えてこない。客は本当に必要な物しか買い求めず、この先も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・今後も続々と値上げが予定されており、その影響による買い控えや、売上確保のための販売競争等も厳しくなると思われる。利益の確保が難しくなる。
		スーパー（店長）	・単価は上がるが、客が低単価志向に走っているため、家庭からの食品に対する支出自体は変わらない。
		スーパー（店長）	・福山駅周辺再開発中は、どうしても工事車両の往来や交通規制も多く、マイカーでの来客数に陰りが見られる。駐車場の問題等を含め、周辺環境が整わない限り、景気の上昇は実感できない。
		スーパー（管理担当）	・原油・穀物関係の物価が値上がりしたことにより、あらゆる食品が値上がりしている。あらゆる単価の上昇により、消費者の購買意欲は抑えられている。
		コンビニ（エリア担当）	・全体的なパイが増えたわけではないので、他メーカーとの競争することになるが、売上が順調であり、さらに新規企業と契約の話もあるため、今後も順調に推移する。春先にかけてのキャンペーン契約もあり、売上の拡大は見込める。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・今ごろから春物が売れ出す時期だが、冬物不振の悪い流れが続いており、しばらくは好転する気配がない。
		自動車備品販売店（経営者）	・必需品に近いメンテナンス関連は堅調に動くものと予想するが、その他は期待できない。今の動きが当分続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約件数がまだ予想より少し少ない状況であり、今後の動きが気に掛かる。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・食の安全の問題、ガソリン代の高騰、競合店の増加など不安材料が多い。来客数を増やすための施策を考えていく必要がある。
		タクシー運転手	・それぞれの企業についても大きな手ごたえはなく、景気の上向き感はない。これから先、イベント等の予定はあるが、参加者も少なく低迷している。
		通信会社（社員）	・通信サービスの新規利用者が春先で増える可能性があるが、退会者も予想され相殺となる。
通信会社（総務担当）	・新規契約が期待できる新築集合住宅等の大型案件がなく、需要は低水準で推移する。		

	テーマパーク（財務担当）	・当然来客数は増えるが、それは季節的要因によるもので、それを除いて考えると現状と大きく変わる要因はない。	
	設計事務所（経営者）	・原油高物価上昇のニュースが飛び交うなか、春ごろ景気が回復してくるとはとても思えない。もう少し時間が掛かる。	
やや悪くなる	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・2月1日から大手ビール会社の値上げを皮切りに3～4月に順次、焼酎・小麦粉関連商品・日配品など多くの商品が値上げされる。一時的にビールなどの需要増が予想されるが、全般的には低調な動きになる。	
	百貨店（営業担当）	・2月下旬に競合施設のオープンがあり、少なからず影響を受ける。	
	百貨店（売場担当）	・中国人件費増と原油高によるコスト増で春物婦人靴も2,000～3,000円アップする。今の消費マインドでは、売上増は難しい。	
	スーパー（店長）	・ガソリンの値上げに伴い、諸物価が上昇し、それに反応して消費者の購買意欲が低下する。これから先、景気がやや悪くなる。	
	スーパー（店長）	・今後は、原油高、電気・ガス・水高熱の値上げが予想される。その影響で、全体的に消費が冷え込み、生活防衛のため、支出が減少する。	
	スーパー（店長）	・2月より更に値上げされる食品カテゴリーが増え、一層消費者の価格に対する関心は厳しくなる。	
	スーパー（総務担当）	・販売点数の減少が著しい。幸い来客数は減少していないが、今後も値上げが続けば、客足が止まるのではないが。	
	スーパー（財務担当）	・価格の上昇による買い控えにより、売上の減少と利益率の低下がある。	
	コンビニ（エリア担当）	・価格の上昇傾向は今後も続き、ますます客の財布のひもは固くなる。	
	コンビニ（エリア担当）	・現状の値上げ攻勢は、客単価の低下を招いている。値上げで客単価がアップするかと思ったが、それ以上に買上点数の減少が大きい。客の無駄な物は買わないという傾向はますます強まり、しばらくは厳しい状況が続く。	
	コンビニ（エリア担当）	・一時的には商品価格高騰の影響で売上が上昇するように見えるが、実態は値上げによるもののため、個人消費に歯止めが掛ければ景気回復にはなりえない。	
	家電量販店（店長）	・これといった新製品も出ず非常に混迷した市場になり、客の様子からみても燃料の高騰等が生活に影響し、まだまだ購買意欲が上昇する状況にない。	
	乗用車販売店（経営者）	・ガソリン価格の高騰が大きく影響している。また、株安から模様眺めの状況が今後も続く。	
	乗用車販売店（店長）	・新型車を投入したにもかかわらず、前年実績を超えられない状況からみて、好転はしない。	
		住関連専門店（広告企画担当）	・とにかくお金が掛からないように済ませたい人と、多少高くても永く使える物を購入した方が得になると考える人との差が大きく開き、二極化が更に進行する。地元で作った家具の最低価格と、広告などでアピールできる金額との差がひどく、地場家具産業の今後も気掛かりである。
		その他小売（営業担当）	・景気の回復が消費者に実感としてなく、消費行動が鈍くなる。
	一般レストラン（店長）	・いろいろな物の価格が高騰しているが、安易に値上げすることもできず、客も外食に使う経費を抑える傾向が続く。	
	一般レストラン（店長）	・年末年始から現在に掛けて、客単価がどんどん低下している。これから先も、景気回復を実感できない限り、客の財布もどんどん固くなるばかりである。	
	スナック（経営者）	・得意先の土木建築業者がどんどんつぶれ、大きな会社でも人員整理等で職を失う人が多く、客がどんどん減っている。また、定年退職したり身体が悪くなったりと、毎年客は減る一方である。客が増える見込みが全くないので、今後もやや悪くなる。	
	都市型ホテル（総務担当）	・原材料の高騰がどこまで続くかなど不安材料が目につき、かと言って好材料が見当たらない。また即価格転嫁とはいかない状況化においては、景気後退と言わざるを得ない。	
	タクシー運転手	・乗客の間からは、1つも良い話が聞こえてこない。また、ほとんどのタクシー会社がやっている介護タクシーの部門でも、すべての会社が赤字で、さらにNPO法人の進出の影響も大きく、当社でもやめるような動きになっていく。	
	テーマパーク（広報担当）	・昨年よりも雪が多くなりそうで来園者が減少する。景気が良くなるとレジャーには金を使ってもらえないが、ニュースなどでも不景気をおおるような情報ばかりが流れているので良くならない。	

		美容室（経営者）	・売上や来客数があまりにも少なく、同業者と話をして、売上が増加する要素が見当たらない。今後が不安である。	
		設計事務所（経営者）	・建築基準法改正や建築費高騰による業務停滞が、急激に改善される見込みは薄い。	
		住宅販売会社（従業員）	・販売価格を上げにくい状況の中で、コスト面は上がってきているため、厳しい状況が続く。	
悪くなる		一般小売店〔茶〕（経営者）	・何もかもをぎりぎり我慢する消費傾向になる。正直、私たちもお金を使いたくない。	
		スーパー（販売担当）	・商品の値段が少しずつ変化しているのに客が気づき、この上げ幅が落ち着くまでは買い控え傾向が続く。	
		コンビニ（エリア担当）	・いろいろな商品で値上げがあるため、出費を抑える傾向がこれからも続く。	
		衣料品専門店（販売促進担当）	・ガソリンも物価も上がり、世界的に株価も下がっている状況で、本当に無駄な物は買わないと言う人が増えている。今後も厳しくなる。	
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・所得の低い鳥取県では、暖房費や諸物価が上がれば、消費を切り詰めて生活防衛するしかないため、消費の伸びは期待できない。	
		観光型ホテル（経理総務担当）	・館内の改装工事の影響もあるが、この時期に問い合わせや予約が入っていなければならぬ婚礼が、前年の4割しか取れていない。今後入ってきたとしても、上期の前年割れは必至である。	
	企業 動向 関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・クライアントからの要望がまだまだあり、高水準を維持していく。人材をどこまで充足できるかが課題である。
やや良くなる		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・中国及び東南アジアを中心に、新車開発案件があり、その引き合いが活発化してきている。	
変わらない		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・受注の先行生産は継続しており、さらにその納期の中心は来期になるため、現在の好調な生産量は今後も継続する。	
		鉄鋼業（総務担当）	・サブプライムローン問題など米国景気の減速には注視する必要があるが、引き続き高生産が続いており、アジアを中心におう盛な需要が続く。	
		電気機械器具製造業（広報担当）	・受注が確保できる見通しが無い。	
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車は引き続き好調な受注があるが、料金体系の変更の影響が不明だが携帯関連の受注の落ち込みが目立つ。家電関連も、そろそろ入学・入社時期を視野に入れなければならない時期なのだが、それにしても、強気の生産計画が見えてこない。	
		輸送業（統括）	・収入の増は見込めるが、燃料代の高騰で利益は出ない。燃料代で収入が消えている。この状況は今後も続く。	
		輸送業（運送担当）	・高騰している原油価格にめどが立たない限り、厳しい状況はしばらく続く。	
		通信業（営業企画担当）	・廉価版通信サービスの利用動向が一段落しておらず、高品質・高価格のサービス件数は、ペースは急ではないが、減少し続けている。この状態が持ち直す気配は見えない。	
		金融業（業界情報担当）	・サブプライムローン問題から米国経済は減速しているが、欧州・アジア圏では引き続き需要好調で、当面は高水準の受注が続く。	
やや悪くなる			食料品製造業（総務担当）	・OEMの商品を多く製造しているため、大口の取引先が生産を控えると、売上・利益共に極端に減少してしまう。先行きが不安である。
			化学工業（総務担当）	・これからも原材料の高騰が懸念される。
			金属製品製造業（総務担当）	・年始のあいさつ回りの際、訪問先の社長からは、住宅関連の得意先の社長の顔は暗いとの話が出た。また、当社の営業所長は不渡手形をつかまされないように債権管理を強化することになるなど、今後の厳しさを感じる年明けである。
			一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内市場の悪化が長期にわたり続いており、売上については厳しい状況が当面続く。
		建設業（経営者）	・公共工事もそうだが、民間、特に建築工事については、仕事量が大きく減少している。また、小さな業者では、倒産・廃業といったことで、どんどん姿を消している。これから先も、まだまだ景気が落ち込んでいくのではないかと。	
		通信業（部門長）	・製造業関連は、海外受注が好調で設備投資もある程度見込めるが、運輸・サービス業を中心に、通信関係も含めて、投資に対して、大変消極的である。	
		金融業（営業担当）	・心理的影響に加え、ガソリン価格を始め原材料が高騰している。特に運送業についてはコストアップが顕著で、企業業績はかなり落ち込む。	

		会計事務所（職員）	・ガソリン代の上昇が、調達コストのすべての面に影響を与えてきている。結果として材料費等の値上げにつながっている。コスト管理が非常に難しくなってきたため、利益確保が昨年よりは困難になってきている。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・春季以降の合同説明会の問い合わせが増加している。
変わらない		人材派遣会社（営業担当）	・景気は若干下ぶれする可能性が高くなった。それにより、柔軟な雇用が可能な派遣社員の採用意欲が高くなる可能性がある一方で、求職者確保は厳しく、求人の方すべてに対応できない状況が続く。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・各企業の通年中途採用の意欲はまだ継続的にあるが、決算の見通し、及び4月の新入社員の受入状況により、今後の求人人数がかなり流動的になる。
		職業安定所（職員）	・新たな雇用を創出する予定がない。原油価格は多少下がっているようだが、その影響が地方に反映されるのは、3か月以上先となる。
		民間職業紹介機関（職員）	・中途採用の現場で面接は実施するが、費用対効果を考えて採用基準を高め設定し始めたので、正規雇用者の増加にはつながらない。
やや悪くなる		職業安定所（職員）	・原油価格の高騰の影響で材料費が上がるなか、すぐに販売価格に転嫁するのは難しい状況にあり、今後の対応に頭を悩ませている企業が多く、結果として求人意欲が冷え込みつつある。
		職業安定所（職員）	・原油高騰や原材料価格の値上げなどが、当面は雇用に影響を及ぼすことはないと思われていたが、ここへきて中小企業を中心として、経営上の不安から新たな採用を控える動きが一部に見られ始めた。
		職業安定所（雇用開発担当）	・先月に続き、原油価格の高騰により、衣食住にかかわる生活用品の値上げが報道されている。値上げ前の駆け込み需要は確かに予想され、一時的には消費需要をもたらすが、反動としてその後の消費の縮小が、国内経済に与える影響は大きい。消費が低迷し、生産者が様子見をし、その活動に制限を掛けることで、労働市場におけるこれまでの売り手市場から、正反対の状況を呈することが予想される。
	悪くなる	-	-